

時間	学習活動	指導内容や指導上の留意点	資料等
導入	<p>1 北方領土の地域的特色や領土問題の歴史的な背景、日ロ間の交渉の過程について振り返る。</p> <p>2 学習課題をつかむ</p> <p>北方領土問題を法や正義に基づき、平和的に解決するためにはどうすればよいだろうか？</p>	<p>○ 地理的分野と歴史的分野の学習内容の理解のもとで授業が実施できるものとする。</p> <p>○ 日ソ共同宣言や東京宣言で「法と正義に基づき、平和条約の締結を目指す」という考えで一致している点をおさえさせる。</p> <p>○ 授業実施の時期については学習内容からも国際連合や国際司法裁判所を取り扱う単元を想定している。</p>	地図資料 ワークシート
展開	<p>3 国際司法裁判所と安全保障理事会の役割と問題点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1972年の国際司法裁判所の付託提案 ・2022年のウクライナによる国際司法裁判所への提訴 ・国連憲章（第94条） <p>4 日本とロシアで平和的に解決するために必要なことについて考える。</p> <p>〈視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本とロシアとの二国間の関係 ・北方領土返還後の地域づくり <p>〈立場〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元島民の立場 ・現島民のロシア人の立場 ・安全保障理事会の非常任理事国としての日本の立場 ・多国籍企業の立場など 	<p>○ 国際司法裁判所は当事国の同意が必要であることや判決に従わないときは安全保障理事会に訴えることができることを理解させた上で、法や正義に基づいて国際機関を使った解決が難しいことに気づかせる。</p> <p>○ ウクライナ問題に伴うロシアへの経済制裁が継続される中で四島周辺海域での安全操業のための交渉やビザなし交流ができなくなっている等のニュースをもとに日常生活での影響について考えさせたり、返還後の北方領土の将来的な姿を想像させたりすることでできるだけ生徒に問題の当事者意識を持たせる。</p>	資料 ワークシート 資料 新聞記事 ワークシート
まとめ	<p>5 自分の考えをまとめ、他の生徒に自分の考えを伝える。</p>	<p>○ 様々な立場から経済制裁や返還後の地域づくりについての思いや願いがあることに気づかせる。</p> <p>○ 作文コンクールや標語作成、現地視察事業などの取り組みを紹介し、参加を促す。</p>	ワークシート